

平成二十六年度（第2回）高校生世代「人権の詩」

【入選】

“あなただけの色”

渡部 鈴華

そうだよ。

世界はいつでもあなたの背に風を吹きかけてはくれない

だからかな

時々世界はあなたにイジワルする

強くなるう 自分でいよう

誰も同じ色の心を持つてるわけじゃないから

弱さも強さも違うはずだよ

たしかに、

あなた一人が消えてしまったとしても

世界は時の歩みを止めてはくれない

でもね

たった一輪の花、月の角の一片でも消えてしまえば

何億人が幾度日々を重ねても

同じ景色を蘇らせる事は誰にもできない

強くなるう 自分でいよう

あなたでいられるのはあなただけ

分かっていても、怖くなる時

何年立ち止まってもいいから

一瞬で自分捨てるのはやめてね

あなたの抱えているものは

この青と緑で埋め尽くされた星の上、

一粒の砂にさえかき消されるくらい小さくて

大丈夫、誰も見ていない。

一人になることなんて、本当はちっとも怖くないんだ。

強くなること 自分でいること

それは胸に宿る意思とは裏腹に

簡単な事では 決してないから

誰もが抱えてる、一生のテーマ

それでいい 悩む事は、弱いんじゃない

確かに瞳に自分を写せている証

だから、強くなれる

だから、自分でいよう

あなたでいられるのは

あなただけ